

2008年1月1日から2017年9月31日に、当院で分娩停止のため帝王切開手術を受けた方へ

研究実施のお知らせ

研究の題名： 分娩停止の適応で緊急帝王切開となった症例におけるオキシトシン投与終了から児娩出までの時間と術中出血量の関係性に関する後方視的検討

研究期間： 医学部附属病院長の許可日～2019年3月31日

研究責任者： 山梨大学医学部 産婦人科 講座 診療助教 篠原諭史

山梨大学医学部では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の目的と意義について】

オキシトシン（陣痛促進剤）投与による分娩誘発・促進の中止後から児娩出までの時間（Recovery time: RT）と術中出血量との関連性を検討することで、分娩停止症例で術中出血量を減少させるための指標を明らかにすることを目標としています。本研究の結果を踏まえて今後周産期管理を行うことで、帝王切開時の輸血などを減らすことができる可能性があります。

【研究の方法について】

当院で周産期管理を行った低置胎盤の単胎妊婦 102 例を対象に、診療録をもとに患者データを抽出します。得られたデータを統計ソフトを用いて解析し、オキシトシン投与による分娩誘発・促進の中止後から児娩出までの時間（Recovery time: RT）と術中出血量との関連性を検討します。

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録より取り出しますので、改めて患者さんに行っていないことはありません。

【試料・情報を利用する者の範囲について】

この研究において取得する試料・情報の利用者は、本学医学部産婦人科講座の研究者のみです。

【個人情報の取扱いについて】

収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【お問い合わせ等について】

この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先まで、メール又はFAXにてご連絡ください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

また、患者さんや代理人の方のご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報および知的財産の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する

資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。希望される方は、以下までメール又はFAXにてご連絡ください。

〈お問い合わせ等の連絡先〉

山梨大学医学部 産婦人科 講座

診療助教 篠原 諭史

メールアドレス：sshinohara@yamanashi.ac.jp

FAX：055-273-8719